

2022年12月25日（日）主日朝礼拝説教

『飼い葉桶の救い主』井上隆晶牧師
イザヤ書1章2～4節、ルカ福音書2章1～20節

①【天と地が一つに結ばれた日を喜びなさい】

クリスマスおめでとうございます。イエス様がお生まれになったその夜、羊飼いたちが野宿しながら夜通し羊の群れの番をしていました。夜空には星が瞬いていたことでしょう。すると突然、天使が現れ、羊飼いたちに近づいて来ました。彼らはその光に包まれ、彼らの周りは神の栄光で照らされました。聖書はこう書いています。「主の天使が近づき、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。天使は言った。『恐れるな。私は、民全体に与えられる大きな喜びを伝える。今日、ダビデの町であなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。』」（ルカ2：9～11）

ここにキリスト教の特徴が一番よく表われています。この世の宗教は人間が頑張っ
て良い人になり、天国に登らなければなりません。それは下から上への運動で
す。しかしキリスト教は全くその逆です。神の方から人に近づいてくる、天国が
地上に降りて来るのです。つまり上から下への運動なのです。このクリスマスの
時、それが最もはっきりと表れたのです。主の天使たちは羊飼いたちに近づき、
地上に天の光が届きます。その光で地上は栄光に輝きます。天使たちの大軍は地
上に向かい「いと高きところには神に栄光あれ、地には平和、御心に適う人にあ
れ。」（ルカ2：14）と讃美を歌い、地にある者たちを祝福します。こうして天と
地が一つに結ばれ、神と人が一つに結ばれ、闇と光が一つになるのがクリスマス
なのです。降ってきてくれるという事、ここに私たちの希望があります。

● 4世紀のヒッポのアウグスティヌスはこう言います。「人よ、目覚めなさい。あなたのために神は人となりました。…キリストが時間のうちに生まれて下さらなかったなら、あなたは永遠に死んでいたでしょう。キリストが罪深い肉と同じ姿を引き受けられなかったなら、あなたは罪深い肉から解放されることは永久になかったでしょう。このような慈しみがなされなかったなら、あなたはとこしえの惨めさを持ち続けたことでしょう。キリストがあなたと死を共にしてくださらなかったなら、あなたは生き返らなかったでしょう。…おいでくださらなかったなら、滅びていたことでしょう。そこで喜びをもって、私たちの救いと贖いの到来を祝いましょう。偉大な永遠の日そのものである方が、そこから私たちのほかない日の中に来てくださったこの日を祝いましょう。」

人は神を見ることは出来ませんでした。しかしこの日、神は人となり、人が見る
ことのできる者となりました。人は神に触れることは出来ませんでした。しかし
この日、神は肉体を取り、人が触れることのできる者となりました。人は誰も天
の国を見たこともなく、そこに入ることも出来ませんでした。しかしこの日、神
は天の国を地上にもたらし、人が地上にいながら天の国を味わうことが出来るよ

うにして下さったのです。御子の到来と共に、天のあらゆる富が地上にもたらされたのです。切れてしまった天の世界と地上の世界はこうして御子キリストによってつながりました。切れてしまった神と人はこうして御子キリストによって結ばれました。だからこそ私たちはこの日を祝うのです。

②【飼い葉桶は貧しいあなた自身の象徴】

この喜ばしい知らせは、エルサレムの王、神殿にいる祭司、聖書を日々研究していた学者、身分の高い議員ではなく、まず最初に荒野にいる貧しい羊飼いたちに知らされました。また神は荘厳な姿では地上に現れず、むしろ、人がつまずような貧しい姿で現れました。すなわち「飼い葉桶に寝ている乳飲み子」(ルカ 2:12)の姿です。なぜでしょう。これが神からの「しるし」であることに気づきましょう。神は生まれる場所として首都エルサレムではなく、小さな村ベツレヘムを選ばれました。王宮でも神殿でもなく、汚れた貧しい「飼い葉桶」を選ばれました。貧しさと小ささ、罪深さ、これが人間の本性だからです。飼い葉桶というしるしを見て、「これは私だ！」と悟る人は幸いです。天からの雨が窪んだ所にたまるように、謙虚な心に神は宿ります。羊飼いたちは謙虚でした。自分の汚れと貧しさと小ささを知っていたからです。一方、王や祭司や学者たちは、高慢だったので神は宿ることができなかつたのです。貧しくならなければ人は救い主に出会えません。

主はあなたの中に入り、あなたと共に生きたいのです。偉人が訪れた所は、記念碑が立つほど有名な場所になります。その場所がすばらしいからではなく、訪れた人が偉大な人だからです。同様に、神があなたの中に来れば、あなたは神殿となり、高められるでしょう。神が住まわれれば、そこは天となるでしょう。主は地に落ちたあなたを栄光に輝く者とし、天に引き上げて、父なる神と永遠に生きる者としたいのです。あなた自身がどれほど罪深くて、それでもあなたを愛する神がいる！ということがすばらしいことなのです。

天使は羊飼いたちに「あなたがたのために救い主がお生まれになった」(11節)といいました。イエス様は羊飼いや一人ひとりのために生まれました。降誕は昔話ではありません。今日を生きるあなたのためにも生まれたのです。愛を必要としない人は誰もいません。みな愛されたいと望んでいます。イエス様は人間一人ひとりを愛するために生まれたのです。羊飼いたちは、自分たちは神に認められ、受け入れられ、大切に思われているということを知りました。「羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて天使の話したとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った」(ルカ 2:20)と書かれています。イエス様が来たからと言って、彼らの生活や貧しさは何も変わりません。彼らは何も変わらない現実の世界の中に喜び、賛美しながら帰って行きました。世界は変わらなかったけれども、彼らの心が変わったからです。こんな自分でも神様に愛されていたのだということを知ったからです。これが幸せの秘訣です。

③【あなたもキリストを着なさい】

晩課の祈りの中に「主こそ王。威厳を衣とし、力を衣とし、身に帯びられる。」(詩篇 93 : 1) という句が出てきます。威厳と力という神性を着ておられる神は、今日人間となり肉体という衣を着、布に包まれました。神をどうやって包めばいいのでしょうか。マリアがくるんだのは神であり、太陽よりも輝く光です。この方は神性の光を放っているのに、今日朽ちる産着(ぼろ布)をまといました。この布は私たち自身の象徴です。この朽ちるものに、朽ちない性質を与えるために、朽ちるものに包まれる必要があったのです。永遠に生きておられる方があなたの死をまとい(着)、その代わりにあなたは「キリストを着る」(ガラテヤ 3 : 27) のです。

●クリスマス・イブのことです。出産をひかえた一人の女性が、雪の中、友人の宣教師の家を目指して歩いていました。もう少しで友人の家だということで彼女は前のめりにつまずいた時、突然陣痛が襲います。これ以上、前に進めないことを知った彼女は、這って近くの橋の下に行きました。この橋の下で彼女は男の子を産みました。彼女は自分の着ている服以外何も持っていなかったため、自分の服で男の子をくるみました。赤ちゃんをくるむと、彼女は捨ててあった麻布をはおり、疲れ果てて赤ちゃんの横に眠りました。次の朝、宣教師はプレゼントを渡すために出かけた帰り道、その橋の近くで車が止まりました。ガス欠でした。車から降りた宣教師は、赤ちゃんと凍死してしまった母親を見つけました。宣教師はその赤ちゃんを引き取り、自分の子として育てました。彼は何度も自分の母親の死を宣教師から聞きました。彼の12回目の誕生日、クリスマスの時に、彼はお母さんのお墓に連れて行ってほしいといいました。お墓に行く時、彼は祈った後、泣きながら自分が着ていた服を脱ぎ始めました。それを脱いで一枚ずつお母さんの墓の上にかけていきました。彼は雪の中で裸になり叫びました。「お母さん、僕のために、これよりも寒かったのですか？」

イエス様は着ていた神の衣をすべて脱いで私たちに着せ、代わりに私たちの罪の衣を着て下さったのです。私たちが生かす為にこの方は貧しくなられたのです。「主は豊かであったのに、あなたがたのために貧しくなられた。それは主の貧しさによって、あなたがたが豊かになるためだったのです。」(Ⅱコリント 8 : 9) 主によって私たちは高く上げられ、生かされたのです。だから誰も貧しいままで帰る者がいませんように。なぜならすべての人に命を与えるキリストがこの世に生まれたからです。誰も自分の罪や弱さを恐れませんが、なぜなら赦しが飼いの葉桶に置かれたからです。イエス・キリストの豊かな命と富をすべての人が受け取りますように祈りましょう。